

週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月19日(火)

《私たちの完璧な母 マリア様 ～話しかけ、慰められ、甘えられる母～》

今日の福音(マタイ 12・46 - 50)では、“イエス様がご自分の話を聞こうと集まった人の群れに教えている間に、母マリア様とイエス様の兄弟と呼ばれる人々が外へ来て、待っていた”と書かれています。それに気付いた人が、イエス様に「あなたのお母様と兄弟たちが待っています。」と伝えます。しかしイエス様は、予想もつかない返事をしました。「わたしの母とはだれか。わたしの兄弟とはだれか。だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である。」とおっしゃったのです。

この箇所を読んで、「イエス様も母マリア様を大事にしなかった」と言う人がいます。皆様も、「なぜイエス様はマリア様に温かい言葉をかけないで、無視するような言い方をしたのか。」と気になったことがあると思います。この箇所を表面的に読もうとすれば、そのような気持ちになるのは当然でしょう。しかし私たちは、この箇所に隠れている意味を読まなければなりません。

神様は、人間の世界を救うために、一人息子であるイエス様を遣わす決心をなさいました。そして、救いのためにイエス様がこの世に来られ、人類の罪のために十字架の道を歩まれました。それからこの世は、^{まこと}真の救いの意味を知ることになったのです。その人類の救いのために、誰よりも協力したのはマリア様です。彼女の協力がなければ、人類の救いの歴史は作られなかったかもしれません。そのくらい、マリア様がこの世の中で果たした使命は大きいものでした。

では、イエス様がそれを知らなかったと思いますか。いいえ、イエス様は誰よりもお母さんのことを分かっていました。そして誰よりもお母さんのことを愛していました。それなのにこのような言い方をなさったのはなぜでしょうか。イエス様は、最後の死の姿も母であるマリア様に見せました。イエス様にとってマリア様は、いつも心のふるさとのような温かい存在だったと思います。しかしこの箇所では、イエス様は、血縁よりももっと大事な神様のみ旨を行わなければならなかったのです。

その当時のイスラエル人が一番改めなければならなかったことは、「自分たちだけが選ばれた民族だ。」という他の民族を退けようとする心でした。「兄弟、兄弟」と呼びながら、兄弟同士の中でも差別する心があったのです。

イエス様は、母を立てることより、その人々に正しい生き方を見せる方を優先させたのだと思います。しかしそれを見て、「マリア様もただの人間なのに、なぜ尊敬しなければならないのか。」という考えになり、一番大事なお母さんを失ってしまったのがプロテスタント教会です。けれども私たちには母がいます。つらい時、嬉しい時には、いつでも走って行って、話しかけ、慰められ、甘えられる母を私たちカトリック教会は持っています。

私たちは、自分の本当の母に自分の望むような母らしい姿を見せてもらえなくても、それを乗り越

えられるくらい美しく完璧な母の姿をマリア様の中に見ることができます。

今日の福音を読んで、もう一度お母さんに対する愛を深めましょう。

ありがとうございました。